工事の現場より

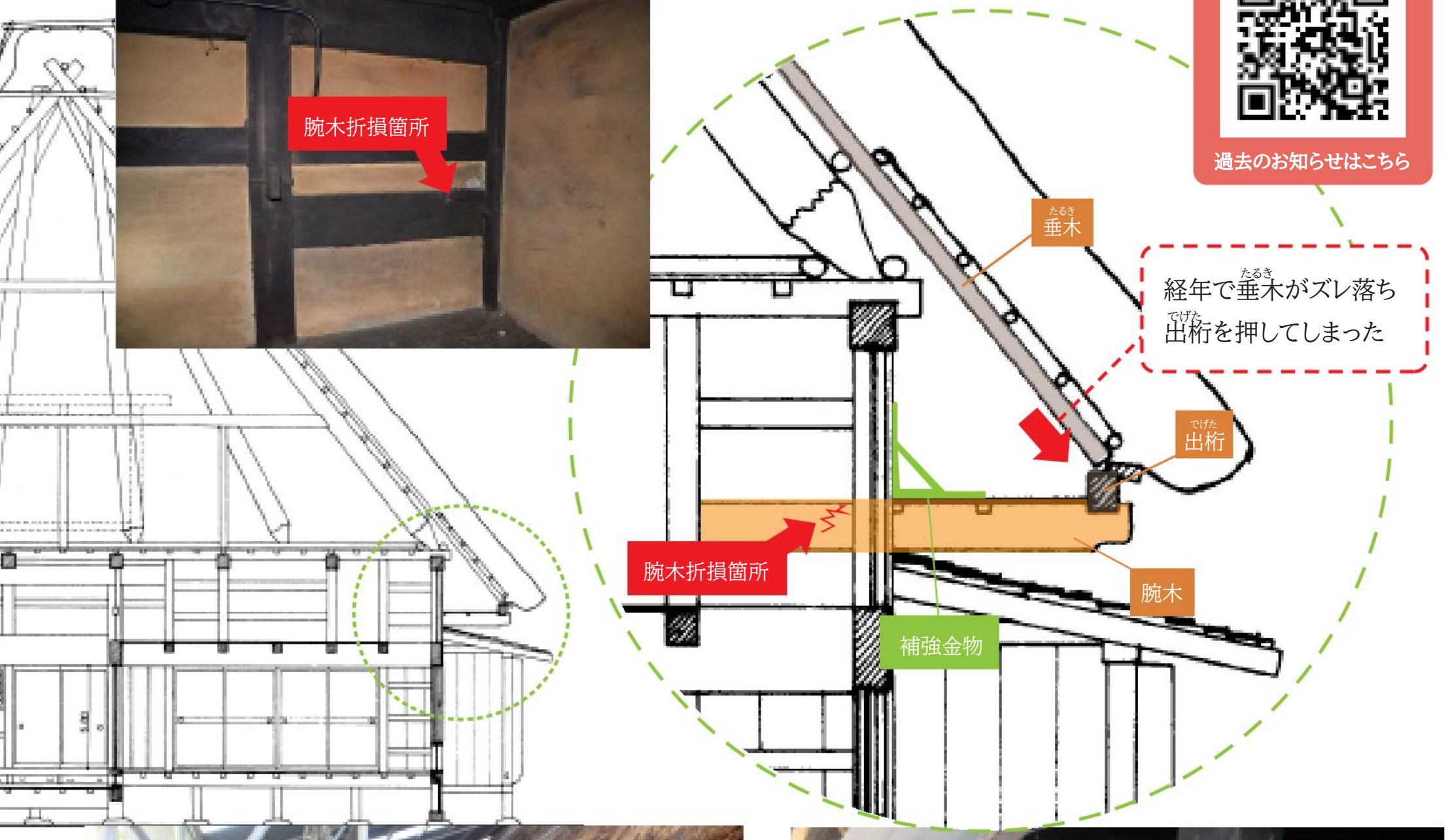
旧矢筈原家住宅 保存修理事業

５月４週目

修理現場から 文化力

旧矢筈原家住宅の軒は、「出桁造り」という、腕木を外に突出させ、その先端に桁（出桁）を出す構造となっています。 見上げると立派な腕木が並ぶ姿は壮観で、 家の大きさに見合った格の彩りとなります。この出桁構造は、 本来は軒裏装飾の意味で設けているもので上部の荷重を受けていませんでしたが、 経年で茅葺屋根の一部の垂木が下がってきてしまい出桁を押して出桁が部分的にたわみ、 一部の腕木が折れてしまっていました。今回の修理では垂木の押し付けを無くし、 また下がってしまった出桁・腕木は持ち上げ是正し、 折れてしまった腕木には、 外から見えない箇所に補強金物を付けて頑丈にしました。

過去のお知らせはこちら



垂木に押されたわんでしまった出桁・腕木を元の位置に戻すため、頑丈な足場を利用し、ジャッキを使い持ち上げました。

折れてしまった腕木を支える金具。 屋根の内側（茅葺屋根の下・軒天井の上）に取り付けたため屋根葺き作業後は見えなくなります。